



肥後独楽

HIGOKOMA

担当 横山舞

- 寸法：(台座)
幅7.2cm×
奥行29.2cm×
高さ2.5cm
- 材質：木、鉄(芯)
- 製作地：熊本県



熊本独自の伝統独楽

“お正月には凧あげて こまをまわして遊びましょう”と歌われるほど、日本の正月風景には欠かせないコマ。その歴史は古く奈良時代にまで遡り、中国から伝来したものとされています。^{しんぶつえ}神仏会の余興や貴族の遊戯ともなり、平安時代からは民間の子どもの間でも遊ばれるようになりました。

コマは、地域によって遊び方やその形態に違いがあります。本資料は、熊本に伝わる郷土玩具で、「肥後独楽」あるいは「変り独楽」とも呼ばれます。熊本のコマの特徴は、種類が多く、色彩が豊かなこと。本資料も例にもれず、12点のコマそれぞれの名前と形状が異なります。いずれも赤、黄、緑、青などの色を幅を変えながら配色していますが、胴体の外側は木地のままです。また、木地の下から鉄製の芯を打ち込んでいるものもあります。こうした鉄芯をもつものは、太い紐を5、6回巻いて、これを逆手に持ち、地面にぶつけて回します。



一風変わった遊び方 ～チョンカケ～

多種多様な肥後独楽のなかでも代表格とも言えるのが、「チョンカケ」です。大きいもので直径15cmに及ぶものもあります。こうした大きな「チョンカケ」を回す場合には、1～1.5mの紐を両手に持ち、コマの芯の根元に紐をかけ、空中で紐を引くことで、紐に乗せたまま回転させます。古くは武士の間の遊びでしたが、江戸末期には大道芸人も現れ、明治以降は民間でも流行するようになりました。この技は第二次世界大戦後に廃れたものの、1968(昭和43)年に保存会が設立して復興し、1975(昭和50)年2月26日には熊本市無形文化財に指定されました。

引用・参考

- ・岩井宏實 2017 「こま【独楽】」『絵引 民具の事典【普及版】』 河出書房新社
- ・梅原与惣次 1936 「熊本独楽」『肥後郷土玩具随想』
- ・川越仁恵 1999 「こま 独楽」『日本民俗大辞典 上』 吉川弘文館
- ・熊本市HP (https://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=5889) 2020年4月1日閲覧
- ・肥後ちょんかけこま保存会HP (<https://higochonkakegoma.jimdofree.com/>) 2020年4月1日閲覧